

## 互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、存在感のある校長会に

佐賀県小中学校校長会  
会長 久保和彦

今年度会長として、御承認いただきました神崎市立神崎中学校 久保和彦です。新役員を代表して挨拶申し上げます。

62年の歴史ある佐賀県小中学校校長会会長の大役を仰せつかりました。私は、まだまだ未熟者でございますが、富永英美前会長の意を引き継ぎ、本会の目的を達成し、本県教育のさらなる振興・発展に向け、任を果たして参りたいと強く思っております。どうぞよろしくお願い致します。

令和2年4月7日、政府が新型コロナウイルスの感染防止のための緊急事態宣言を七都府県に行い、16日には全国に拡大されました。現在は教職員も自宅勤務を奨励する事態となっています。今だかつて経験したことのないこの事態により、全国の学校は休校の措置をとり、本県も14日からやっと再開出来るようになりましたが、またいつ感染者が出て休校になるか、予断を許さない不安な状況が続いています。

それだけでなく、現在の学校では、学力向上、いじめ問題や不登校問題への対応、さらに県内教職員大量退職期にあたっての教育力維持・向上等、山積する課題の解決に向けた取組が求められています。

更に、小学校の新学習指導要領実施の年であり中学校は来年に向けて、しっかりとした各学校の教育ビジョンを踏まえた教育課程を編成し実践する飛躍の年であった、と思いますが、何も出来ていない現状です。

しかし、どんな状況においても、我々校長は学校を預かる責任があります。政府や県、市・町の教育委員会の指導のもと、児童・生徒のために、出来ることを確実にやっていくことが重要だと考えます。

そこで、私は、このような状況に鑑み、令和2年度の佐賀県校長会の在り様、目指すべき姿を次のキャッチフレーズで示したいと考えています。

### 「互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、存在感のある校長会」

「互いの尊重と協働」とは、学校で校長は孤独だと言われます。評価や責任があるので仕方の無い事かもしれませんが、校長同士や教育委員会、高校、PTA、退職校長会等の団体などと連携することは、校長にとって非常に有益だと考えます。特に校長同士が信頼関係を築き、全校長がワンチームとなることが大切です。そのことが学校教育では非常に重要だと考えています。

「しなやかに」とは、包容的で柔軟な見方、捉え方、考え方、場合によっては大胆な軌道修正をも決断する修正力を併せ持つことであり、リーダーの資質であると思います。

「存在感」とは、信念に基づき本質を見極め、先を見通した判断力、実行力であり、現場で必要な能力であると考えます。

今年度は、例年と同じ状況ではなく、行事一つ一つをどのようにするか、選択が迫られる年になります。そんな時に一人で悩まず、近隣の校長先生と共に連携したり協議したりして対応を考えて下さい。様々な人の意見を聞くことは非常に参考になります。その為にも、県校長会は何でも相談できる、「互いの尊重と協働のもと、しなやかで存在感のある組織」として、全校長先生方の力・支えとなり、前進していきたいと考えます。

最後に、フォレストガンプ等でアカデミー賞を受賞した名優トム・ハンクスは、オハイオ州の大学の卒業式で、「我々はウイルスを克服した“その後”を生き続けることになる。大きな犠牲を強いられる事態を君たちは生き抜くことになる。そして、平常化を再始動させる役割を果たすために、これ以上清々しい人材は君たちをおいて、他に存在しない。選ばれし者たちよ」と感動のスピーチをしています。

我々は、新型コロナウイルス感染拡大防止対応による休校を経験し、そのことを克服した選ばれし校長となるのです。互いの尊重と協働のもと、しなやかで存在感のある校長会として、厳しい状況の中でも共に前進して行きましょう。どうぞよろしくお願い致します。